

『BOXアート～自由な発想で新しい空間を生み出す～』

高知県立室戸高等学校

竹本 佳代

～学校紹介・特色～

高知県立室戸高等学校は、高知県に最初に設置された総合学科である。一人ひとりの個性を伸ばし、生徒や保護者の希望にかなった進路を実現するとともに、郷土に定着し、その発展に寄与する人材を育成する地域密着型の学校を目指している。

2010年9月14日、室戸は「世界ジオパークネットワーク（GGN）」へ加盟申請する国内候補地に選ばれており、本校では「ジオパーク学」という授業も開講している。ジオパーク学では、室戸の地質に加え、歴史、観光と産業などについても学習する。

芸術面では、美術部が2009年のまんが甲子園において準優勝を果たしている。

題材：『BOXアート』

●対象学年：第2学年 男子2名 女子6名 （計8名）

女子は、美術に興味・関心を持った生徒が集まっており意欲的だが、男子はやや意欲に欠ける部分がある。すぐに楽な表現へ逃げようとする傾向にあるので、まず、じっくりと作品に向き合い、自分なりの表現を見つけられるよう指導していく。

●所要時間：16時間

●題材設定の理由

BOXアートは、絵画やデザイン、彫刻など多様な表現方法を組み合わせることによって箱の中に自分の世界を作りあげていく。様々な表現方法を選択できるため、素材や空間を自由に扱い表現していくことができる。

日々の生活では忘れ去られた、がらくたのようなものであっても、BOXの中に配置されることで新たな価値が生まれることもある。素材の面白さを活かしながら、自由な発想のもと、空間を構成していく能力を養わせたい。

●準備するもの

教師…BOX(木製)、ワークシート、木工用ボンド、参考資料、カッター、はさみ等

生徒…筆記用具、各自必要な材料

●手順

- ①ワークシートを使う。
 - a) まずは表現したい世界を言葉で書き出していく。

その世界を表現するためにどうすればいいか(材料や構成等)を考えていく。
 - b) 表現したいものが浮かばない場合は使いたい材料を書き出していく。

その材料を組み合わせてどんな世界ができるかを考えていく。
- ②アイディアスケッチをしていく。
- ③制作の順序を決める。(先に作っておかなければならない部分等をよく考えて計画をたてておく)
- ④制作していく。
- ⑤完成。
- ⑥相互鑑賞。

●まとめ

各自、工夫を凝らしながら自分なりの世界を展開させることができていたが、表現方法が一定の枠から抜け出せないままの生徒もいた。「色をつける」という作業では、絵の具やペンなどで「塗る」という方法が意識のなかに固定されているようである。例えば、カラー印刷の新聞紙や色のついた砂、ビーズやスパンコールなどを貼りつけるという方法でも色をつけることは可能であるのだが、自分がやったことのない新しい表現方法を考えるのは少し難しい様子であった。そのような生徒に対し、少しきっかけを与えてみると、そこから自らアイディアを膨らまし、黙々と新しい方法を試し始めた。生徒の表現したいことをよく理解したうえで、発想の糸口となる助言をしていくことが重要である。

また、ある程度作品が完成してくるとそこで満足してしまい、その先の変化がなかなか見られない生徒もいた。よりよい作品にするために、一度完成したと思っても、そこからもう一歩なにかできないだろうかというアイデアを再び練り直すような姿勢も身につけることができれば良いと感じる。どのような視点から作品を観察していけばいいのかも指導していきたい。

今回の課題のように、表現方法が自由であるということは、アイディアがどんどん浮かんでくる生徒にとってはやりやすいものだと思うが、そうでない生徒にとっては戸惑いも多いだろう。苦手意識を持っている生徒でも、制作の過程を楽しむことができるよう、今後も授業を工夫していきたい。